

# 南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

〈7〉

## 阪神・淡路大震災の教訓

【被害を大きくした原因】

阪神・淡路大震災の被害を大きくした最大の原因として、「防災意識が低く、防災対策がほとんどなされていなかった」ことが挙げられています。1946(昭和21)年の南海地震以来大きな地震は発生しておらず、みんなが「関西には大きな地震は無い」と思い込んでいたようです。

さらに、県や市と自衛隊などの防災機関との日ごろの連携が不十分で、共同訓練や連絡調整などは全く実施されていませんでした。このため、特に当初の数日間、大パニックも加わって効

果的な救助活動ができませんでした。

【阪神・淡路大震災の教訓】

先月号の被災者及び救助活動の状況などから、次のことが教訓として得られました。

- ① 住宅等の耐震対策(耐震補強、家具の転倒防止等)の重要性
- ② 自主防災組織(隣・近所の人がお互いに救助し合うシステム)の結成・強化の必要性
- ③ 高齢者など、災害時要援護者の被災防止対策の重要性
- ④ 県・市町等と消防・自衛隊等の防災機関との日ごろからの連携、特に情報

の共有

そして、最も重要なのは、これらの前提となる「防災意識 防災対策」であり、この良否が被害の程度を左右するということです。

【人の命の大切さ】

私は、約100日間、阪神・淡路大震災の災害派遣活動に従事してきましたが、そのとき最も強く感じたことは、当たり前のことですが「人の命の大切さ」ということです。現地の惨状を目



震災直後、被災者は家族総出で水を確保した。95年1月、神戸市灘区で

のあたりにし、「天災に対し、人間はいかに弱い存在であるか」を痛感しました。と同時に「生き残り、復興に立ち向かう人間のたくましさ、力強さ」に感動しました。

天災の前に、生と死は紙一重で偶然性もあるかもしれませんが、結果として生と死の差は膨大です。すなわち、「生き残る」ことが最も大切で、一人ひ

とりが「自分の命を大切にすることの積み重ねが防災の原点である」と思います。「あれさえやっておけば、助かったのに……」と後悔しないように、今から備えておきたいものです。

【次号のテーマ】

以上で「知る」を終了し、次回から「意識する」に入ります。次号は防災対策の重要性についてお話しします。

## エピソード

③

【今どきの若い者も……】

「今どきの若い者は……」という言葉があります。一説によると、人間がしゃべり始めて以来、ずっと使われている言葉だそうです。しかも、その後には、決まって「だらしが無い」「頼りない」など否定的な言葉が使われます。私も普段の若い部下たちを見て、同じ思いをしていました。

しかし、災害派遣に出勤して、その思いは大きく変わりました。

現場に入って、当初の人命救助の段階では、建設機械を使えないので、操作員は待機させ、他の隊員に手作業で人命救助に当たらせていました。

その時、操作員たちが「待機は嫌だ！何でもいから現場で働かせてくれ」と要望してきたのです。普段の訓練では休憩と待機を一番喜んでいた彼らが……。そして見事な働き振りでした。

「今どきの若いものも、いざという時にはなかなかやるな」とうれしくなりました。